

(必要かどうかわからない雑なあらすじ)

とある王国同士の戦争で雇われた傭兵一味は、前線での敗退により撤退を余儀なくされ、追手を撒くため森へと逃げ込んだ。

しかし、その逃走した先の森でエルフの村を発見。

彼らを歓迎せざる者に見なし、戦いの構えを見せるエルフたちだったが傭兵隊長は彼らも戦争の影響で兵を送り出した為に村の防備が手薄である事を見抜き、村の長老である美人エルフと一対一の話し合いを行う。

そして荒くれ傭兵をも従わせる巧みな交渉術により、争いを避ける代償として

「エルフ女性に一人、傭兵たちの慰安相手となってもらおう」

という要求を受け入れさせる事に成功する。

しかし慰安を行う為に傭兵たちの元に現れたのは、交渉を行なった美人長老本人なのだった。

交渉の時から既に自らが慰安の役を引き受けるつもりだった長老。

村の為に自ら犠牲になろうという彼女を、傭兵達の溜まった欲望が襲う……



「おいおい、長老つていうから年増が出てくるのかと思つたら
とんでもない美女じゃねーか」
「エルフの女ヤベーな、ホントに見た目が変わらねー」

「……勝手な事を言っていないで、さっさと済ませてください。
それと、他のエルフに手を出さないという約束は絶対に守ってもらいます」



「へへ、わかってるって。俺たちも争いはキライだからさ〜」
「ウソつけデメー、目の前に美女がいるのに手を出せないなんてねーわ、
絶対に襲ってやるって息巻いてたじゃねーか」
「ガハハ！ 女を前に紳士ぶってんじやねえよ！」

「くっ……なんて最低な連中なのでしよう……！」
「でも、だからこそ私が全て引き受けて終わらせなくては……」

「さて、その上品な格好もいいんだけどさ。

俺たち下品で単純だからさ、乳とマンコ見せてくれよ」

「何ならストリップダンスしながらでもいいぞ！ ひゅー！」

「なっ……！！ は、裸になれと言っつのですか」

「別にそのままでもいいけどよ。その服、乱暴に引き裂かれちゃ困るだろw」

「わ……わかりましたから。乱暴は止めなさい」

（亡きあの人にしか見せなかつた肌なのに……アナタ、ごめんなさい……）

「うおおお！ やつぱり最高にそそる体してるなあ！ 長老さんよ、これで子供産んでるってマジかよw」
「しかも未亡人だっつて!？」 生娘みてえなマンコしてるぜ」
「いやあ勿体ねえ、今日は俺たちとたつぷり楽しもうぜ！」

フルン

ムン...

「うう、なんて屈辱的なの……!」
でも我慢しなきゃ……!
こんな事、一刻も早く終わらせなきゃいけない!

「それじゃ早速頂かせてもらおうぜw 長老さんよろしく頼むぜ
ずっと1人で寂しかった分、たっぷり感じてくれよ!」
「いいから早くやれよ、後に控えてんだ」

「……早く始めてください」
「こんな人間相手に感じる事など無いわ……大丈夫……落ち着いて」

「オホ」



「うっ……何だコレ、すっげえキツイぞ……!!」 「女日照りが続いたからって興奮し過ぎだろオマエワ」 「いやマジで吸い付くような感触だつての!」

ズズズズ



「あ、うっ……!!」 「私の中、入ってきてる!」 「なにコレ、圧迫されてキツイ……!!」



「く、くそつ、動くからなの！」「ううう」「何ゆくりやっでんだー！」「
「気を抜くと出ちまいそうなんだよー！」「知るか！」「さっさと出して代われー！」「
「あっあっ出るっー！」

「アッー！」「ハハハハ！」「中、動かたびに擦られて、感覚がすげー！」「
な、何で、あの人とはこんなに刺激なんて無かったのに……！」

ニクニクニク

ズンズン



「ウーッ！ フウッッ！」
「うわコイツマジでイキやがったぞ」 「早漏すぎだろwww」
「え、マジでそんなに良いのか？」 「……おい、早く代われよ」
「ま、待って……ううっ、マジです、吸われてる……おほう」

「えっ、ああっ！ な、中で、出したのですかー？」
「当たり前じゃねーか。マンコの中に出さないのはセックスとは言わねーんだよ」
「そ……そんな……」

ジュジュッ
ジュジュッ

三



「まあエルフと人間はデキづらいつて言うから大丈夫だる。デキたら諦めな」
「ほらほら、さっさとどけつて……うわあ、すっげえ出してるコイツ」
「へへ……娘だったら俺が引き取るぜ、美人が生まれそうだ」
「オマエの子種じゃ、相手がどんな美人でもどうしようもねーわwww」

「くっ……」
（本当に人間の子を孕むなんて事は……
いや、大丈夫……滅多に無い事のはず……）

ドロ〜
ムシムシ

「それじゃ次は俺がお邪魔するぜ……うおつ、確かにコレは……おほほう」
「前のヤツのザーメン残ってるのに気持ち悪くねえの」
「いやいや、そんなの気にならないくらいヤベエぞこりゃー」

「やっ、少し、休ませ……てっ……うううっ」
「休みも無しに入れてくるなんて……！ は、早く終わらせて……」

ズンズン

ググッ



「く、く、く、わかつたぜ……ごじろくんがイイんだる」
「……ち、違います……」

「わかんだよ、ここを擦るとな、キュッて締まるんだよ。くくく……
それにな、耐えてるのが表情にも出てるぜ。おらおら」

「あー！アッ、やあッ、ダメッ！」
（く、声！中を擦られると、声が、）

勝手に出ちゃうー

（……んんん……）

アムアム



グッグッ

「うっわ、なんだこの量……どろっどろじやねーか」
「マジ……搾り取られてるみてえだわ……吸い付くみたらいなマンロだわ……」
「っ、次は俺だよな！ 早くどけよ！」

ド
ロ
ロ
ド
ロ
ド
ロ

（はあ、はあ……んんっ、んんっ、こんな出されてる……気持ち悪い……）

「はあはあ、俺のちんぽも入れさせるっ……!!」
「おう、オマエのすつげえ長いな! こりや奥までガンガン突けそうだなw」
「へへへ、娼婦どもはすぐ嫌がるが、今日は遠慮なく突っ込ませてもらうぜ!」

ナガアヤ〜

「えっ……や、止めて……!」
「そんなの、全部なんて入らない……!」



「おらおらっ、俺のちんぽはどうだ！先に当たってるココがオマエの子宮か！ほれほれ、ここまで突かれた事あんのか！他の男じゃ届かないだろ！俺がオマエの子宮を最初に突いた男だぞ！」
「いや興奮しすぎだろ、腹の上からでも激しく動いてんのがわかるぞw」

ズンズンズンズン
ズンズンズンズン

「アハ……ううっ、ダメ、奥だめえっ！苦しいっ！
ズン、ダメダメっ！突かないで！あーっ、うんうんっ！」

「はい終わったらどいたどいた。次がつかえてんだからさ」
「まだだ！ もつと俺の精液をエルフに注ぎ込んでやる、エルフの腹に……」
「アイツ興奮しすぎだろ」「エルフに悪い思い出でもあんのか？w」

「うっ……ひびく……」
「ああ……人間の子種が、あんなに私の中に……気持ち悪い……」

ニョムニョム

コロコロ

ブビュ



「あれ、泣いてんのか？ まだ一人目だぞ？w」
「まだまだ控えているんだから、頑張つてくれよ。あんまりゆりぐらゆるりして
最初の連中がもう一回とか言い出すぞw」

「な……！ 泣いてなどいません。早く次の方、きてください」
（そうだ、悲しんでいる暇なんて無い……こんな事、早く終わらせなくては）



「つ、次は俺だ、
「次はお前か。ハーフオークのちんぽの良さ、エルフに教えてやれよw」
俺、女とやれる、しかもエルフと。嬉しい」

「ハ、ハーフオークですって!?! そんなの聞いていません!」
「そりや言つてねえからな。だが俺達の大事な仲間だ、よろしく頼むぜ」



「俺、いつも娼婦に断られる。やつと女犯せる。嬉しい」

「そ、そんなの入らないわ！無理だから、止めて！」
「おいおいそんな不公平な事言うなよ、こいつは可哀想な奴なんだ。
ちゃんと受け止めてやってくれな」

ズボム

ゴキゴキム

「アアッ！ンッ！ンッ！」

「大丈夫、俺、優しくする。そして孕ませる」

「おーっ、流石エルフだ。あんなぶつといのでもちやんと受け入れてるぞ」

「おい、俺の時にガバガバになつてんじゃねーだろうな！」

「め、目の前、真っ白に……バチバチして……
お腹、苦しくて、息、息が出来ない……！」

ムニニ

ニ

ズズズ

「フーツ、フーツ、ちんぽ、気持ち良い！」
「おいおい、まるで動物みたいだな。必死に腰振つてやがる」
「エルフ……孕ませる……エルフ……孕ませる……」

ガズガズ

ズルズル



「ビュッー！ ううっ！ あっー！ やあっ、ひゅー！」
「奥、突かれる度に、火花、飛び散ってる、みたいだ……！」

「ウウーッ！ ウーッ！」
「うわっ、なんだなんだ、射精したのか!?!」
「うへえ、中に収まりきらない分が結合部から溢れてきてるぞw 臭っせえ」
「ブヒイーッ！ ブフオーッ!！」

「お、お腹、苦しうっ！」
「……」
「ダメえ、圧迫されて、吐き気が……」

ニャウニャウ
ニャウニャウ
ニャウニャウ























































